

狛ブー個人主義によるIT革命の在り方

狛ブー元年間講師（徳島大学大学開放実践センター助教） 西村美東士

徳島に来て3年を過ぎようとしている。狛ブーから離れて長くなってきた。でも、最近の狛ブーの様子でも、年間講師の榊原正博さんのホームページやkoeboo.メーリングリストで知ることができる。

去年の夏、ぼくが東京に行くとき、何人かがぼくに会いたい（本当か？）という話になった。そのとき、米田修さんがkoeboo.メーリングリストで次のように発言してくれた。「ところで場所と時間はどうなるんだろう、誰か決めてくれれば参加の意志を表明するのに、と考えていらっしやる方がかなり多いのではと思います。（中略）もちろん私も『ねぶた』をおさえろとの指示等があれば、直ちに行動致します。このまま何も話が進まず、せつかく連絡をくれたヨロ。さんを悲しませることのないよう、皆で考えましよう。」

ぼくとしては、みな迷惑も顧みず思い切って東京行きを連絡したのだが、たしかに「やっぱり迷惑だったかな」と弱気になっていたところだった。だが、このよねさんのよねさんらしい助け舟によって力を得て、さっそくぼくの方から「ねぶた」で集まれる人と会えるようにお願いした。

狛ブーが得意とする「番外編」にとって、インターネットは

このように便利で、しかも狛ブーの良質な個人主義的風土（前年度「いなほ」自著論文参照）にも適しているように感じる。

そこで、ぼくはもうひとつ提案したい。狛ブーには「一年に一回来ればメンバーだ」という「おきて」がある。これは、欠席したからといって責められたりしないということを保障する言葉である。

個人は完全な自己決定で参加することができる。そして、たしかに、一年に一回ぐらいしか来ない人、来れない人がたまに参加したときの、狛ブーにおけるその人の存在価値はとても大きいものであった。

しかし、そこにはひとつ大きな問題が残っている。ほんとうにその人の「自己決定」は保障されているのか、という問題である。「最近、このような雰囲気になっていて、次回はこんなことをする」ということを知った上でこそ、自己決定が実質的に保障できるはずではないか。

このように、個人の「完全な自己決定」の集大成として活動しようとする狛ブーの無茶な個人主義の実験のためには、インターネットは有効なツールであるといえる。これこそ「IT革命」という名に値する。まさに「新しい酒を新しい皮袋に盛る」である（新しい酒は狛ブー個人主義、新しい皮袋はインターネットというツール）。

ただし、念のためいえば、発信者自身も、発信にどの程度自分の力と時間を注ぐかは、個人の事情にしたがって自己決定で行うものである。

それからもう一つ、じつはぼくは最近は次のように考えている。「自己決定」や「オートノミー（自律）」というものは18世紀以降の近代主義の産物であり、今後はむしろ「依存しあって生きていく」ということこそ重視されるべきではないか。以前、ぼくは「さわやかに依存できることこそ、自立の要件」と述べたことがあるが、まあ、そういうことである。

この側面についても、粕ブーがインターネットを活用して、今後、実践的に証明できるのではないかと期待している。

粕ブー個人主義によるIT革命のあり方
H13.3.31/粕江市中央公民館
粕ブー「いなほ」平成12年度青年教室
活動記録

